

お願い 永くご使用して頂くために、保守・点検・整備をこまめに行って下さい。
不調にお気づきの時はお早めに販売店、販売元、又は製造元までご連絡下さい。

定期的に点検・清掃を！

- 中性洗剤を染み込ませた布で、泥やホコリなどの汚れを拭き取り、その後空拭きで洗剤をきれいに拭き取ってください。
- ハンドリムなどの表面のキズを見つけた場合は、安全のため紙ヤスリで滑らかにしておきましょう。
- 清掃時には各部のキズ、亀裂、ボルト、ナット類の緩み、タイヤの残り等を合わせて点検し、緩み等があれば締めましょう。各ジョイント部への給油も行ってください。
- 清掃後はワックスをかけておくと美しさが長持ちし、汚れにくく汚れた時も汚れを取りやすくします。

製品を安全にご使用頂くために

- 使用者最大体重は積載物も含んだ重さです。体重制限を守って使用してください。
- 段差や凹凸等のある路面等を走行する時は、前のめりにならないように、注意して操作してください。



使用前には必ず点検を行って下さい。

- ブレーキがしっかりと効くかご確認ください。
- ネジ、ボルトのゆるみがないかご確認ください。特に、駐車ブレーキ取付部や車輪軸部は確実に確認してください。
- フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
- シート、ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないかご確認ください。
- 車輪のガタ、ゆるみ、曲がり等がないかご確認ください。
- キャスター輪及びキャスターフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
- キャスターがゆるんでないか、抜け落ちてないかご確認ください。
- 主車輪がしっかりと装着されていて抜けてないかご確認ください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止し、速やかに販売店に修理、部品交換、調整をご依頼ください。

販売元

France Bed
フランスベッド株式会社

本 社 〒163-1105 東京都新宿区西新宿 6 丁目 22-1 新宿スクエアタワー 5F
TEL 0120 - 083413

製造元

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現 3 5 - 2
TEL (0568) 21-0635 (代) FAX (0568) 23-2787

リハテック
Reha tech

横移動車いす

サイドウェイ 取扱説明書

このたびは、車いすをお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございました。
ございました。お取り扱いになる前にこの「取扱説明書」をよく
お読みの上、正しく御使用くださいますようお願い致します。



お使いになる前に



一般的な注意点！

- 車いすを投げたり落としたりしないで下さい。
- 火気を近づけないで下さい。
- 腰かける部分以外には座らないで下さい。
- 2人乗りはしないで下さい。
- フットサポートの上で立たないで下さい。
- バックサポートに重いものなどを引っ掛けしないで下さい。
- 車いすの乗り降りの際には必ず左右車輪の駐車ブレーキをかけて固定して下さい。
(ブレーキをかけていても動く事がありますのでご注意下さい。)
- タイヤを持って漕がないで下さい。(ブレーキやレバーで指を挟みます。)
- 倒れかかる様な座り方はしないで下さい。
(転倒したり、車いすが壊れやすくなります。)
- 起伏の激しい路面ではスタンドブレーキが凸部に引っかかり、スムーズな走行が妨げられる可能性があります。特に屋外で使用の際は段差や凹凸物に十分ご注意下さい。
- 毛足の長い絨緞の上などでは操作がスムーズに行えない事があります。

放置してはいけません！

- 直射日光のあたる場所。(車内も含む)
- ストーブなど火気を使用し、高温になる場所。
- 湿気の多い場所、又は雨のあたる場所。
- 子どもが遊びに使えるような場所と保管方法。

介助が必要な時！

- 凹凸や段差のある場所での移動。
- 溝のある場所での移動。

介助者の注意点！

- 走行中搭乗者の身体の一部及び衣服がタイヤ、スポーク、キャスター、及び地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないように、車いすに安全に座れているかを確認してから操作をして下さい。
- 介助者は絶対に車いすに乗って介助をしないで下さい。
- 認知症の方の場合は車いすのシート、部品などを飲み込むことも考えられます。十分注意して下さい。

部品のなまえ

アームサポート

サイドガード

座面シート

スライドレバー

レッグサポート

フットサポート

バックサポート

グリップ
介助者ブレーキ
背シート

レバーロック

タイヤ / 主車輪

ティッピングバー

サイドウェイレバー

駐車ブレーキレバー



傾斜地での走行または駐車には十分注意して下さい。車いすごと転倒し、重大な事故に繋がる恐れがあります。

走行中身体を乗り出したりして、走行の安全性を損なう事のないように注意して下さい。

傾斜地や坂面では、横スライド機能での使用や主車輪を外しての使用は絶対にしないで下さい。

1. 車いすの広げ方・たたみ方

車いすの広げ方



- ①グリップを握り、上方へ引き起こすように持ち上げます。②グリップを持って軽くその際レバーロックがカチッと音がする事を確認して下さい。左右に広げて下さい。



*車いすへ移乗する(車いすに乗る)時は、完全にグリップが固定されている事を確認の上、移乗して下さい。
*写真中、注意部分に手や指を置かないで下さい。



- ③座面左右のパイプ部を下の方へ押し下げます。



* 押し下げる時、座面パイプより下に手や指を入れないで下さい。



- ④フットサポート(足台)を下方へ回転させるようにセットします。(乗ってからセットするのが一般的です。)

車いすのたたみ方



- ①フットサポート(足台)を広げるように上方へ回転させて折り曲げます。



- ②座面シートの前後、中央部を持ち上げます。



- ③グリップを持って左右から押し締めるように折りたたんで下さい。



- ④グリップを少し前へ押して、一方の手でレバーロックを下部に引き下げながらグリップを手前に引くように折り曲げます。



*写真中、注意部分に手や指を置かないで下さい。

3. アームサポートの使い方

アームサポートのはね上げ方



- ①アームサポート先端のロックを写真のように上へ引き上げ、ロックを解除します。
- ②アームサポートパッドの先端の部分を持ち、上げる時には上へ回転させる様に持ち上げます。下げる時には前へ回転させるように下げます。

❗ *ジョイント部には手を置かないで、アームサポートパッドの先端の方を持って下さい。
アームサポートに腰掛けたり強い力で押さえたり、アームサポートを持って持ち上げるなどは絶対にしないで下さい。
アームサポートを元にもどす時にはロックがしっかりかかっている事を確認して下さい。

アームサポートの高さ調整



- ①ロック解除
- ②上げ方：①のロックを解除した後、アームサポートを上方へゆっくり引き上げます。
- ③下げ方：①のロックを解除した後、アームサポートを下方へゆっくり引き下げます。

黒ボタンのつまみを前方へ引出しとロックが解除されます。さらに半転させるとロック解除が保持されます。
操作が終わったら、半転させたつまみを戻し、元の状態にロックして下さい。



*手指などを挟まないように注意して下さい。
黒ボタンが完全にロックされているか確認して下さい。

4. ブレーキ操作1

主車輪を外した時のブレーキのかけ方⇒P11へ

搭乗者の駐車ブレーキの使い方



- ② 前方へ押ししてブレーキをかける。 ③ 後方へ引いてブレーキをかける。

点検！

- ・搭乗者の駐車ブレーキの利きがあまくなったら、ブレーキ取付けネジを緩めてブレーキを移動させて調整して下さい。
- ・搭乗者の駐車ブレーキの戻りが悪くなる事があります。カバーの中へ注油して下さい。
(介助者ブレーキへの注油は禁止です。)

介助者のブレーキの使い方



- ①介助者ブレーキ（ハンドブレーキ）のレバーをグリップと一緒に握ればハブに内蔵されたブレーキがかかり、離せば解除します。

点検！

- ・介助者ブレーキの握り代が多くなったり、左右が違ってきたらワイヤーの張りで調整して下さい。



共通注意点

*ブレーキをかけた状態で坂を下りないで下さい。
(タイヤ及びブレーキシューが早く摩耗するのと、濡れた路面で急に動き出す事があり大変危険です。)

*介助者ブレーキは補助として使用し、駐車ブレーキには使用しないで下さい。

*しっかりブレーキをかけていても、乗降時などで横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので十分注意して下さい。

*坂の途中では駐車しないで下さい。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをして下さい。

*ブレーキレバーなどに体重をあずけるような事はしないで下さい。

5. フットサポートの使い方

フットサポートの外し方・付け方

スイングアウト



①外し方
スライドレバーを外方向へ押しながら
フット・レッグサポートを外側へ開いていき、
外側へ45°程度開いた所で上部へ持ち上げると外れます。

②付け方
逆の要領で、車いすの外側からフットレスト
の上端パイプを差し込み、スライドレバー
がロックするまで内側へ回転させると装着
できます。

スイングアウト

車いすから移乗する際などには、足下を着地
させるため、フット・レッグサポートを外方向へ
開いて（スイングアウト）ご使用頂くと便利です。



*手指などを挟まないように注意して下さい。
スライドレバーが確実にロックされているか確認して下さい。

6. 横スライド機能を使う 搭乗者

横スライドさせる時



両側のサイドウェイレバーを握り、上方へ引き上げると、
主車輪が浮き、後輪スライドキャスターが着地します。
床、壁や手すりなどを使って押したり引き寄せたり
すると、横方向へスライド移動することができます。



自走式に戻す時



両側のサイドウェイレバーを下方方向に下げると主車輪が地面に着地し、
主車輪での自走が可能になります。



*操作は必ず左右とも確実に行ってください。片側だけの操作での使用は大変危険です。
*坂面や傾斜面では絶対に横スライド機能は使用しないで下さい。

7. 横スライド機能を使う 介助者

横スライドさせる時



①後方のペダルを左右片側ずつ片足で踏み込むと主車輪が浮き、後輪スライドキャスターが着地します。
(その際、グリップを軽く上方へ引き上げながら操作すると簡単にペダルが踏み込めます。)

自走式に戻す時

②後方のペダルを左右片側ずつ足甲で引き上げると、主車輪が着地し主車輪での走行が可能になります。
(その際、グリップを軽く上方へ引き上げながら、操作すると簡単にペダルが引き上がります。)



- * 坂面や傾斜面では絶対に横スライド機能は使用しないで下さい。
- * 操作中はご搭乗者の手が膝の上にある事を確認して下さい。
- 後方からの操作でも前方のサイドウェイレバーは連動して上下に動きますので手指などを挟まないように注意して下さい。
- * ペダル操作は確実に、両サイドのキャスター、または主車輪が完全に着地しているか確認して下さい。
- 操作が未完のままでは走行すると転倒などの恐れがありますのでご注意ください。
- * グリップを持って車いすを持ち上げたり、片側へ傾斜させたりしないで下さい。
- * 操作は必ず左右とも確実に行って下さい。片側だけの操作での使用は大変危険です。

8. 車輪 主車輪の外し方

走行操作

- ハンドリムを握り、本人が前へ押ししたり後へ引いたりする事で、前進または後退します。走行中のブレーキはハンドリムを握って止めます。

主車輪の外し方



①外し方

片方の手で車体を少し持ち上げて傾け、もう一方の手で車輪中心部のゴムキャップを押したまま車輪を外側へ引き抜きます。

②付け方

取り外した時のように車輪中心部のゴムキャップを押したままハブシャフトを脱着ソケットに差し込みます。その際、カチッと音がするまで深く差し込み、主車輪がロックされた事を確認して下さい。



- * 車輪装着の際にリターンロックピンがカチッと元に戻ってロックされた事を確認してからご使用下さい。
- * 外したハブシャフトにゴミ等が付着するとロックしなくなる恐れがありますので注意して下さい。
- * 車輪とフレームの間、スポークの間などに指や衣服が挟まらないよう注意して下さい。
- * 操作は必ず左右とも確実に行って下さい。片側だけに主車輪を装着した状態での使用は大変危険です。

点検！

- ・ シャフト先端部へのゴミの付着、スチールボールの脱落、リターンロックピンの戻りをチェックして下さい。
- ・ ハンドリムの傷で手を切ることがあります。サンドペーパー、ヤスリ等で滑らかに補修して下さい。
- ・ 車軸のガタ弛み、スポークの折れ、曲がり、弛みなどチェックして補修して下さい。
- ・ タイヤの摩耗をチェックし、タイヤの溝が無くなりかけたら交換して下さい。(修理補修ができない場合は、販売店・販売元又は製造元までお問い合わせ下さい。)

9. ブレーキ操作2 主車輪を外している時

ブレーキをかける



- ① サイドウェイレバーに手をかけ、上から下方向へレバーを押し下げると後方のスタンドが着地してブレーキがかかります。

ブレーキを解除する



- ② サイドウェイレバーを握り、上方へ引き上げるとスタンドが浮いて、後輪スライド キャスターが着地します。



* スタンドブレーキをかけない状態で、移乗をしないで下さい。
 * 必ず床面が平坦であるか確認して下さい。歪みや凹凸がある場合にはブレーキが利かない場合があります。危険です。
 * 坂面や傾斜面では主車輪を外しての使用は絶対にしないで下さい。
 * 段差にぶつかったり、車いすを高い所から落としたりするとキャスタが壊れる恐れがあります。十分注意してご使用下さい。
 * 操作は必ず左右完全に行ってください。片側だけの操作での使用は大変危険です。

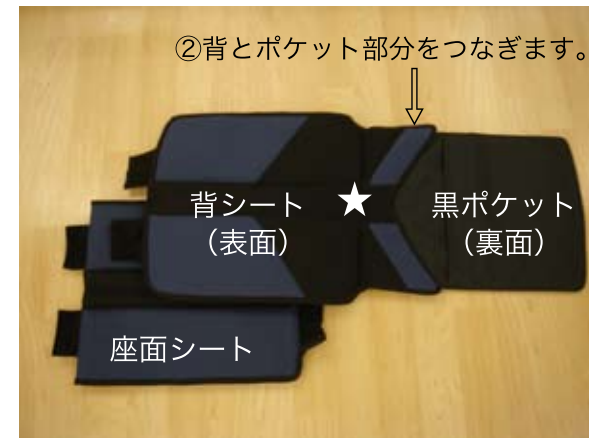
10. バックサポート・シート

背張り調整



- ① 背もたれはご搭乗者の体格や好みに合わせてテンションが調節可能です。マジックテープベルトを緩めたりキツく張ったりして調節して下さい。また、リバーシブルなので、両面使用可能。お好みのカラーでセットして下さい。
 ② シートはセット前に背部分と黒ポケット部分をつないでおきます。

シート装着



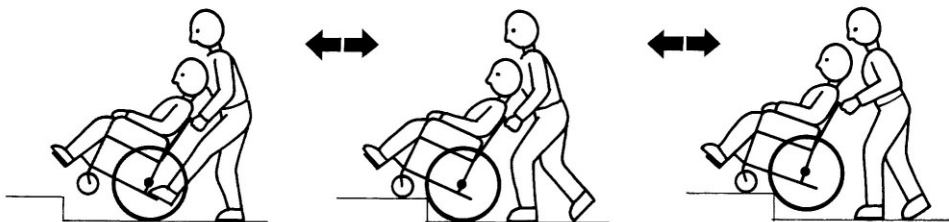
- ③ 背シートは本体ベルト部分に被せるようにセットします。その際 山折り部分 (☆印部分) の裏面のマチ部分を本体に挟み込むようにしてマジックテープに圧着します。シート下部分のマチも本体にしっかり固定して下さい。



* 使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず1本ずつはずして調整して下さい。全て外すと搭乗者が落下し、ケガをする恐れがあります。
 * 調整は駐車ブレーキをかけて行って下さい。
 * ベルトは5cm程度たるませるのが限界です。それ以上たるませるとマジックの効きが弱くなりベルトがはずれる可能性があります。

知っておくと便利で安心!!——介助アドバイス

段差を上げる時、降りる時



①介助者は足元等を事前に確認して、十分な体勢を取ってください。段差に対して直角に近づけてティップングレバーを前へ少し押し出すように踏み、同時にグリップを少し後ろへ少し引くように押し下げて、前輪を浮かせます。急に上げると乗車者がびっくりします。上げる前に伝えるようにしてください。

②そのまま前に少し進み、そっと上段へ前輪を寄せ後輪が段差にあたるまで進みます。その際、前輪が上段の上へ来ている事を確認してからゆっくり降してください。

③グリップを持って後輪を浮かし、上段へ押し上げます。その際、乗っている人の頭を介助者が、胸やおなかで支えながら押し上げると、比較的楽で安心感もあります。

(降りる時はこの逆の方法で行ってください)

急坂の登り下り



登る時は前向きで！
下る時は後向きで！

●坂を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、段々スピードが出てしまい易い等、非常に不安定になります。又介助者がバランスを失った時も危険です。必ず、下る時は後向きで行ってください。但し、自分で操作される方は後向きで坂を下らないでください。

溝を越える時



●踏切り等溝のある場合、溝に対して直角に近づけ段差と同じ要領で前輪を浮かして進み、溝を越えてからゆっくりと降します。後輪が小径の場合は溝に落ちない程度浮かし気味で越えてください。(後を上げすぎると乗車者が前へ倒れたり落ちる事が有りますので御注意ください。)

段差、傾斜他の横断



●傾斜地又は段差の所を横切る場合、基本的には段差、急坂、溝での操作説明で説明した要領で行ってください。どうしても横切らなければならない場合、片方へ傾斜した道路などでは「車いすが急に低い方向へ向いてしまう」<乗っている人が低い方向へ倒れるので車いすも一緒に倒れる恐れがある>等の点に注意してください。又車いすの方向、乗車者の傾きを十分注意しながら行ってください。

※段差・急坂の場合、介助者は低い方で支えましょう。通路等では危険な側で支えましょう。

保証規定

I.保証の範囲

- 1.保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合はこの保証書により無料で修理いたします。
- 2.保証期間はご購入後1年間です。
- 3.但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a)取り扱い過誤による故障。
 - (b)製品に改造を加えた場合の故障。
 - (c)天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d)消耗部品、タイヤ・チューブ。
 - (e)保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f)保証書のご提示がない場合。
- 4.以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
- 5.この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II.サービスのご利用

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III.ご注意

保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理いたします。

機 種		横移動車いす サイドウェイ	
お客様 ご住所 (フリガナ) ご氏名	〒	TEL	
お買い上げ日	平成 年 月 日	保証有効年月日	平成 年 月 日まで
販売店			
総発売元 FranceBed フランスベッド株式会社 本 社 〒163-1105 東京都新宿区西新宿 6 丁目 22-1 新宿スクエアタワー 5F TEL 0120-083413			
製造元		日進医療器具株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787	

車いすは耐用年数6年

を素にして制作してあります。6年経過後使用される場合は販売店または弊社にて点検して頂きますよう、お願いします。